4年生

教科	成果	課題	重点取り組み
<p style="text-align: center; font-size: 2em;">国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文学的文章では、それぞれが課題意識をもって、不思議だと思ったところについて考えを深めたり、友達と共有したりできている。また、文章を読んだ感想をノートに書くことができる。 ・ メモの取り方の学習を経て、他教科や日常生活でも学んだことをいかそうとしている児童が多い。 ・ 説明的文章では、内容を理解し、筆者の考えを読み取ることができる児童が多い。 ・ 文章を読んで、感想や疑問等をノートに書くことができる児童は多い。 ・ 目的意識や相手意識をもって手紙を書く学習に取り組める児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 説明的文章では、段落同士の関係や文章構成と筆者の考えの述べ方を関連付けて理解するのが苦手な児童が多い。 ・ 筆者の考えに対する自分の考えをもてない児童が多い。 ・ 新出漢字の定着率の差が児童によって大きい。 ・ 理科系の学習漫画や図鑑を読む児童は多いが、物語文や小説に親しむ児童は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 説明的文章の単元を学習する際には、筆者の考えが書かれている位置とその意図を理解できるように指導する。また、段落ごとに内容をしっかりとおさえる。 ・ 自分の考えをもつのが苦手な児童には、筆者と同じ立場になった時のことを想像させ、考えをまとめられるようにする。 ・ 宿題や補習プリントを用いて、漢字の定着を図る。 ・ 物語文に興味をもてるように、学校司書と連携して本の紹介をしたり、教科書「この本を読もう」に載っている本を紹介したりする。
<p style="text-align: center; font-size: 2em;">社会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水道キャラバンや下水道出前授業、リサイクルに関する民間出前授業などを通して廃棄物の処理や飲料水の供給などの生活に密着した問題について、実生活に結び付けて考える児童が多く見られる。 ・ 東京都の様子や地理的環境の特色を学びながら廃棄物の問題や飲料水の確保など、身近な問題などの学習活動に興味をもって取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 資料を読み取り、そこから考えられる事象について考えることや表現することが苦手な児童がいる。 ・ 資料などを調べることに関しての活動は意欲的に取り組んでいたが、学習に対する資料の選定について苦手意識をもつ児童が多い。 ・ 都道府県の学習について、苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 表やグラフ、資料を丁寧に読み取り、そこから分かることや必要な内容を伝え合うことで資料から情報を取り入れる活動を行う。 ・ 資料を読み取り、実生活に結び付けて考えられる活動や学習内容を指導する。 ・ 身近な都道府県から範囲を広げ、興味ある事柄から都道府県を関連付ける学習を行う。
<p style="text-align: center; font-size: 2em;">算数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な計算を正しくできる児童が多い。 ・ 新しい学習問題に意欲的に取り組んでいこうとする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 各単位の大きさの関係の理解が不十分な児童が多い。 ・ 角度を測ることはできるが、計算で求める問題になると立式が不十分な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 各単元の文章問題の中で、単位が出てきた際に繰り返し復習したり、他の単位も合わせて確認したりする。 ・ 各図形の性質について振り返りことによ

算数		<ul style="list-style-type: none"> 数の相対的な大きさや数直線上に示された数や棒グラフの読み取りについて理解していない児童が一定数いる。 	<p>って、学習内容の定着が図れるように指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常的に図や数直線などを積極的に活用し、問題解決の手掛かりにする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験や観察に対して、興味・関心をもって取り組むことができる。 生活経験を基に実験結果を自分なりに予想することができる。 実験や観察したことを正確に記録できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎複数の実験結果を基に考察することが苦手な児童が多い。 観察、実験したことが知識として定着していない児童が一定数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎実験結果の可視化、考える視点の明確化、文例の提示などの支援をする。 授業前に前時の振り返りを行い、知識を定着させていく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 表現や鑑賞の学習に意欲的に取り組むことができる。 どのように演奏するとよりよい表現ができるかについて思いや考えをもち、友達と協力して試して演奏したり、助言したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎歌唱では、曲想に応じて声の出し方や響かせ方を工夫する必要があることには気付いているが、十分に表現するための技能が身に付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分や友達の声をよく聴くように助言したり、声の出し方をイメージしやすいキャラクターのまねなどをしたりするなどして、声を響かせて歌うことができるようにする。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 新しい表現や材料などに興味をもち、意欲的に取り組んでいる。 友達の表現に関心をもち、よさを伝えて自分の表現に生かそうとする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分の表したい思いをもつことができる児童が多いが、材料の特徴を生かして発想することについて個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料の特徴をじっくり味わう時間、感じたことを発表し合う時間を設ける。 製作途中に相互鑑賞の機会を設け、互いの工夫のよさを自分の表現に生かせるようにする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> どの領域にも意欲的に取り組む姿が見られる。技の定着や技の精度の向上のために、試行錯誤しながら努力する姿勢が見られる。 集団行動に関わることで、楽しみを見出せるようになった。みんなで協力することや、友達と対話し、励ましながら学習することに価値を見出すことができるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎技能の習得が早い児童と、技能を修得するのに時間を要する児童など、運動技能の習得に個人差が見られ、それぞれがどんな意識をすれば技能が身に付けられるのか課題を立て、練習することに対して課題がある。 体力テストの「上体起こし」「反復横跳び」の数値が都平均より低く、巧緻性、瞬発力、敏捷性に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎グループで見合ったり話し合ったりしながら振り返りの時間を設け、児童間で技能を向上させるようなアドバイスできる活動を積極的に取り入れる。 各単元の中で、基礎感覚作りの時間を設ける。